フィールド（現場）からの風 394

宮田守男

5月下旬、第一生命保険が企画した「第33回サラリーマン川柳コンクール」は応募締め切りが昨年10月だったため、新型コロナウイルス感染拡大に伴う世相の変化を詠んだものはなかった。第1位は50代男性の作品で、家庭で主導権を握れない父親の苦しい立場を詠んだ「我が家では　最強スクラム　妻・娘」だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ新しい暮らし方で父親の家庭で果たす役割が重要になって行くのだろう。3位の「話聞け　スマホいじるな　じさんは　スマホ使えず　キャッシュです」「メモですが」・「おIT機器を巡る世代間ギャップやキャッシュレス決済への戸惑いを切実に感じてしまう。

感染症の恐怖から差別する意識の排除が大切だ

新型コロナウイルス特別措置法の緊急事態宣言が解除されたが、他都道府県との往来を自粛する意識が強く、第2波・第3波の怖さも相まって、観光業が回復するには「時間がかかる」との声が聞こえてくる。国も旅行需要の喚起のため旅行代金の半額クーポンを発行する「GOTOキャンペーン」が8月以降は全国で展開される。多くの年代の皆さんに積極的に旅に出てほしいと願っている。

感染拡大を防ぐ「ステイホーム」の呼び掛けが印象深かったためか、首都圏などの大都市から地方に移動する「コロナ疎開」を防ぎたいと、県外ナンバーへの不安が高まり、県外ナンバー車に異常反応する地域が目立った。また新型コロナウイルスに関する専門会議の諮問委メンバーである慶応大学の竹森俊平教授からは、衆議院予算委員会の場で感染拡大防止と経済活動の両立を図るためとして「国内パスポート（案）」が提起された。地域を定めて区別する考えが公然と国会の場で審議される異常さが、今回の感染症の異常さを物がたっている。

日本の観光にとって外国からの訪問者の重要性が再認識され「インバウンド」により今後世界各国から日本を訪れる皆さんに、国籍によって、どんな対応の違いが出てしまうのか心配でならない。また今回、別荘所有者に対する対応に問題は無かったのだろうか。これまで便利さを最優先にして住んでいた価値観が大きく変わったとの情報も多く聞こえてきた。これからは、田舎暮らしを視野に入れた生活スタイルも多くなって行くのだろう。多様な考えを持つ皆さんとの共生を考える時期なのだろう。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

水田には鴨が遊び、野には野生動物の姿。
共存できる知恵は無いのだろうか